

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

I. 理念に基づく運営	項目数	11
1. 理念の共有		2
2. 地域との支えあい		1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用		3
4. 理念を実践するための体制		3
5. 人材の育成と支援		2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援		2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応		1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援		1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント		6
1. 一人ひとりの把握		1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し		2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援		1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働		2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援		11
1. その人らしい暮らしの支援		9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり		2
合計		30

事業所番号	4672900190
法人名	医療法人 健誠会
事業所名	グループホーム すこやか
訪問調査日	平成21年7月28日
評価確定日	平成21年8月28日
評価機関名	特定非営利活動法人 シルバーサービスネットワーク鹿児島

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4672900190		
法人名	医療法人 健誠会		
事業所名	グループホーム すこやか		
所在地 (電話番号)	日置市東市来町湯田3007番地		(電話) 099-274-3672
評価機関名	特定非営利活動法人 シルバーサービスネットワーク鹿児島		
所在地	鹿児島市真砂町34番1号南光ビル303号		
訪問調査日	平成21年7月28日		

【情報提供票より】(平成21年7月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年4月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	19 人	常勤 5 人, 非常勤 14 人, 常勤換算	15.5 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り		
	2 階建ての	1 階 ~	2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	27,000 円	その他の経費(月額)	9,000 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無		
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 900 円			

(4) 利用者の概要(7月1日現在)

利用者人数	18 名	男性	1 名	女性	17 名
要介護1	3 名	要介護2	7 名		
要介護3	5 名	要介護4	3 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 87 歳	最低	74 歳	最高	98 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	湯田内科病院 こだま歯科クリニック
---------	-------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

住宅街に建てられたホームであり、周囲には病院や公園、商店や公民館などがあり、入居者にとって安全に活動できる環境にある。庭には菜園がつけられ、収穫した旬の野菜を入居者と職員と一緒に味わうこともしばしばである。職員の入れ替わりが少なく馴染みの関係が築かれているため、入居者の表情も明るく、安心して生活している様子が伺える。母体法人には、病院や介護老人保健施設、その他各種の介護サービス事業所があり、地域やご家族からの信頼も厚い。法人全体およびホーム独自の勉強会等を通して、さらなるサービスの質向上に向けて熱心に取り組んでいる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	重度化への対応としてホームの方針を打ち出し、入居者およびご家族との話し合いの機会を設け、共有に努めている。また、災害対策として、非常用の食品や飲料水を備蓄し、緊急時に対応できる体制をさらに充実している。
重点項目	① 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	全職員で自己評価に取り組み、評価の意義を理解しながら、日頃のケアの振り返りを行っている。とりまとめた自己評価結果は、回覧で職員に周知している。外部評価で指摘された課題については、前向きに取り組む改善が行われている。
重点項目	② 運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は2ヶ月に1回定期的に開催され、ホームでの生活状況やサービス提供内容について報告や意見交換が行われている。家族会で選ばれた家族代表や行政担当者に加えて、近隣のグループホーム管理者も出席しており、専門的な立場からの助言を受けている。
重点項目	③ 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	相談や意見を出してもらうために、意見箱の設置や外部機関の相談窓口を掲示している。他にも、個別にご家族から意見をもらうために面談の機会を設けるなどして、ホーム運営に活かせるように努めている。苦情や要望があった場合は、改善策を実施した後、運営推進会議で報告している。
重点項目	④ 日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会へ加入しており、回覧板や広報により行事の情報を集めている。花見や馬踊り、木市、婦人会主催の生き生きサロン等に出かけ、地域の方々と交流する機会をつくっている。また、日頃から近隣とのお付き合いを持ち、地域の一員として交流を深めている。

2. 評価結果詳細

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	基本理念および基本倫理をもとに、地域密着型サービスとしての役割を意識しつつ、家庭的な雰囲気の中で、一人ひとりの尊厳を大切に考えたサービスを提供している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念をホーム内に掲示するとともに、月例会議やミーティングの際に、日常のケアの場面を取り上げ、理念に沿った具体的な対応方法について話し合われている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会へ加入しており、回覧板や広報により行事の情報を集めている。花見や馬踊り、木市、婦人会主催の生き生きサロン等に出かけ、地域の方々と交流する機会をつくっている。また、日頃から近隣とのお付き合いを持ち、地域の一員として交流を深めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員で自己評価に取り組み、評価の意義を理解しながら、日頃のケアの振り返りを行っている。とりまとめた自己評価結果は、回覧で職員に周知している。外部評価で指摘された課題については、前向きに取り組み改善が行われている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回定期的開催され、ホームでの生活状況やサービス提供内容について報告や意見交換が行われている。家族会で選ばれた家族代表や行政担当者に加えて、近隣のグループホーム管理者も出席しており、専門的な立場からの助言を受けている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政担当者とは、運営推進会議以外にも、個別の入居者の暮らしぶりについての相談を通じて、ホームの現状や今後の見通し等について報告や助言を求めながら連携を深めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	暮らしぶりや健康状態については、「すこやか便り」や担当者が書いた「お手紙」で報告している。金銭管理については、ご家族の面会状況等に合わせて個別に対応している。職員の異動に関しては、「すこやか便り」や家族会、運営推進会議の際に報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談や意見を出してもらうために、意見箱の設置や外部機関の相談窓口を掲示している。他にも、個別にご家族から意見をもらうために面談の機会を設けるなどして、ホーム運営に活かせるように努めている。苦情や要望があった場合は、改善策を実施した後、運営推進会議で報告している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動や離職は最小限に抑えるように工夫しており、入居者への影響が無いように努めている。やむを得ず職員の交代がある場合は、十分な引き継ぎ期間を設け、新しい職員と入居者との関係がスムーズに行くように工夫している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム内での学習の他、法人内研修、外部研修と様々な場所での学習機会が設けられている。法人内で行われる認知症の研修については、繰り返し開催して全職員が参加できるように配慮している。また、介護福祉士の資格取得を勧める等、働きながらトレーニングできる環境づくりを進めている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に加入しており、地区での研修会へ積極的に参加している。近隣のホームと協調して、管理者同士がそれぞれの運営推進会議へ参加し、運営方法について助言を行うなど、定期的な交流を通してサービスの質向上に努めている。	○	管理者間の定期的な交流が進んでいることから、今後、さらなる質の向上を目指して、職員間の交流が進展することに期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前には、本人およびご家族、関係する介護事業者等から情報収集を行った上で、可能な限りホームに向いてもらい、雰囲気を味わってもらおうように努めている。入居後も状況を見極めながら、ご家族の面会や連絡の頻度を多めにさせていただいたり、職員のこまめな声かけによって、ホームでの暮らしに少しでも早く馴染めるように配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	調理方法や野菜づくり、肥料のやり方や芽の摘み方、干し柿づくりなど、これまでの習慣や身近な生活の知恵などを学ぶ機会を持ち、入居者と職員とが互いに支え合う関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の暮らし方への意向や思いについては、本人およびご家族から聴取する他、日頃の何気ない会話の中から汲み取り、職員間で共有している。また、在宅時のケアマネジャー等の関係者からも情報収集を行っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者の暮らし方への意向に加え、ご家族や関係者からも聞き取りを行い、今後の課題とケアのあり方を検討している。特に入居者の言葉をそのまま引用して、その思いを介護計画に活かすように努めている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	認定の有効期間をもとに月1回のモニタリングを行い、6ヶ月毎に見直しを行っている。入居者の状態に大きな変化があった場合には、ご家族や関係者と話し合い、随時見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者の通院介助、個別の買い物の支援等を行っている。また、ご家族の宿泊希望にも対応できる体制がある。医療機関の受診や、必要時には専門病院への受診支援を行っている。事業所単独で困難な場合にも、法人からの協力を得られる体制となっている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	これまでのかかりつけ医を尊重しながら、入居者およびご家族の意向によって協力医療機関を紹介している。医療機関受診状況の確認やその後の対応方法についても、職員も含めた関係者間で情報の共有が図られている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	日常の健康管理の中で、重度化への予防を図りながら、重度化や終末期に向けた方針について、家族会や運営推進会議で報告を行い、退居条件とも照らし合わせながら説明し理解が得られるように努めている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者一人ひとりに応じた言葉かけ、羞恥心や自尊心に配慮されたケアに努めている。また、ホーム便りに掲載する記事やホーム内の作品および写真等については、本人の意思やご家族の意向を確認した上で掲示している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的なホームの日課はあるものの、買い物や畑の草むしり、散歩や入浴等、入居者の希望を尊重して無理強いしないケアに努めている。本人の希望やペースについては、「すこやか会議」において職員間で情報共有を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	菜園の野菜づくりや収穫、食材の下ごしらえや後片付け等、入居者の力量に合わせて職員と一緒にしている。本人の嗜好を理解した上で、食べやすい形態や味付けに配慮しており、それぞれの方が食事を楽しめるように支援している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は決められているものの、その時々々の体調や気分も考慮しながら状況に合わせて支援している。入浴を拒否される方に対しては無理強いすることなく、気分が向くような声かけを工夫している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者の生活歴や特技、趣味等を日頃から情報収集しており、台所仕事や裁縫、掃除、台拭きや皿拭き、畑づくり等の役割や活躍できる場面を設けるように取り組んでいる。また、入居者それぞれの気晴らしの方法を見つけて支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物や散歩など、日頃から戸外に出かける機会が多くつくられている。また、季節の行事や催し物に参加するために、遠方まで出かけることもある。入居者によって偏りが無いように、外出したがりない方にも声かけを行ったり、シルバーカーや車椅子を用いて重度の方への配慮も行われている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室や玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、入居者の自由な暮らしを支援するために日中施錠はしていない。地域の方々とは、日頃の付き合いを通して、見守りや声かけ、連絡などをしてもらえる関係を築いている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	入居者参加のもと、年2回の防災訓練に取り組んでいる。近隣住民へも協力を呼びかけ、訓練を見学してもらっている。非常用の食品や飲料水についても備蓄されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に 応じた支援をしている	献立については、職員のアイデアや過去の献立等を 参考に作成されており、バランスやカロリーにも配慮さ れ栄養士の確認も行われている。食事摂取量のチェッ クは毎食後行われ、食事の量や形態など、一人ひとり の状態や好みにあわせた配慮を行っている。水分摂取 量については、基本的に月末の1週間、期間を決めて 確認を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴 室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光が ないように配慮し、生活感や季節感を採り入れ て、居心地よく過ごせるような工夫をしている	数人で語らう場所やゆっくりと過ごせる畳コーナー等、 家具の配置に工夫が見られ、室温や換気にも配慮が 行き届いている。季節の花や壁画などを飾ったりしなが ら季節が感じられるように工夫している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談 しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし て、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしてい る	入居者がこれまで使って来られた馴染みの物が持ち込 まれ、思い出の写真や手作りの作品が飾られるなど、 個性的な居室空間となっている。家具の配置は、本人 の好みや使い勝手を考慮して対応している。		